

エコアクション21 (E A 2 1)

環境活動レポート

2009年度

(2009年2月～2010年1月)

承認	作成
岩崎 (厚)	澤田

作成：2010年3月18日

株式会社 小名木川ギヤー

I. 環境方針

基本理念 — 我らの地球を守ろう！ —

当社は、地球環境保全が全人類にとって最大重要課題であることを深く認識し、事業活動のすべての面で環境に配慮した行動に努め、同時に地域社会との調和を保ちながら事業を推進・発展させていくことを目指します。

基本方針

1. 歯車製造の事業活動を通じて環境経営システムを構築し、人と地球に優しい事業活動の推進と環境負荷の低減に努めます。
2. 環境に関する法規制を遵守し、環境汚染の防止と環境保全に努めます。
3. 当社が行う環境活動は、以下を重点的に行っていきます。
 - 1) 工場、事務所内での省資源・省エネルギーの取り組み
 - 2) 生産活動にともなう加工不良、廃棄物、排出物の削減
 - 3) 5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰け）の励行
 - 4) 調達品のグリーン購買
4. 本方針に基づき環境目標を定め、環境活動計画に従って自主的かつ積極的に活動を展開するとともに、必要があれば環境方針の見直しを実施します。
5. 本方針を従業員および協力企業に周知するとともに、当社の活動を示した環境活動レポートを作成し、社外に公表します。

2008年11月14日
株式会社 小名木川ギヤー
代表取締役社長 岩崎 厚三

Ⅱ. 事業活動の概要及び略歴

会社概要

1. 事業所及び代表者

株式会社 小名木川ギヤー
代表取締役社長 岩崎 厚三

2. 所在地

本 社： 〒135-0003 東京都江東区猿江1-2-7
(審査対象外) TEL 03-3631-0037(代)
FAX 03-3635-0868
E-mail ong@green.ocn.ne.jp

千葉工場： 〒299-4111 千葉県茂原市萱場1525番地
TEL 0475-34-4536(代)
FAX 0475-34-4568
E-mail ongchb@peach.ocn.ne.jp

大網分工場： 〒299-3251 千葉県山武郡大網白里町大網1803番地
TEL 0475-73-1816
FAX 0475-73-1816

3. E A 2 1 責任者・連絡先

管理責任者 常務取締役工場長 澤田 長師
連絡先 環境事務局 生産管理部長 並木 輝夫
TEL 0475-34-4536
FAX 0475-34-4568
E-mail ongchb@peach.ocn.ne.jp

4. 事業の規模

従業員数 86名(2008年12月)
売上高 2,267(百万円) / 2009年1月期
敷地面積 本社 366㎡
千葉工場 6,982㎡
大網分工場 1,340㎡
床面積 本社 195㎡
千葉工場 3,707㎡
大網分工場 842㎡

5. 会社沿革

当工場の沿革を次に記述する。

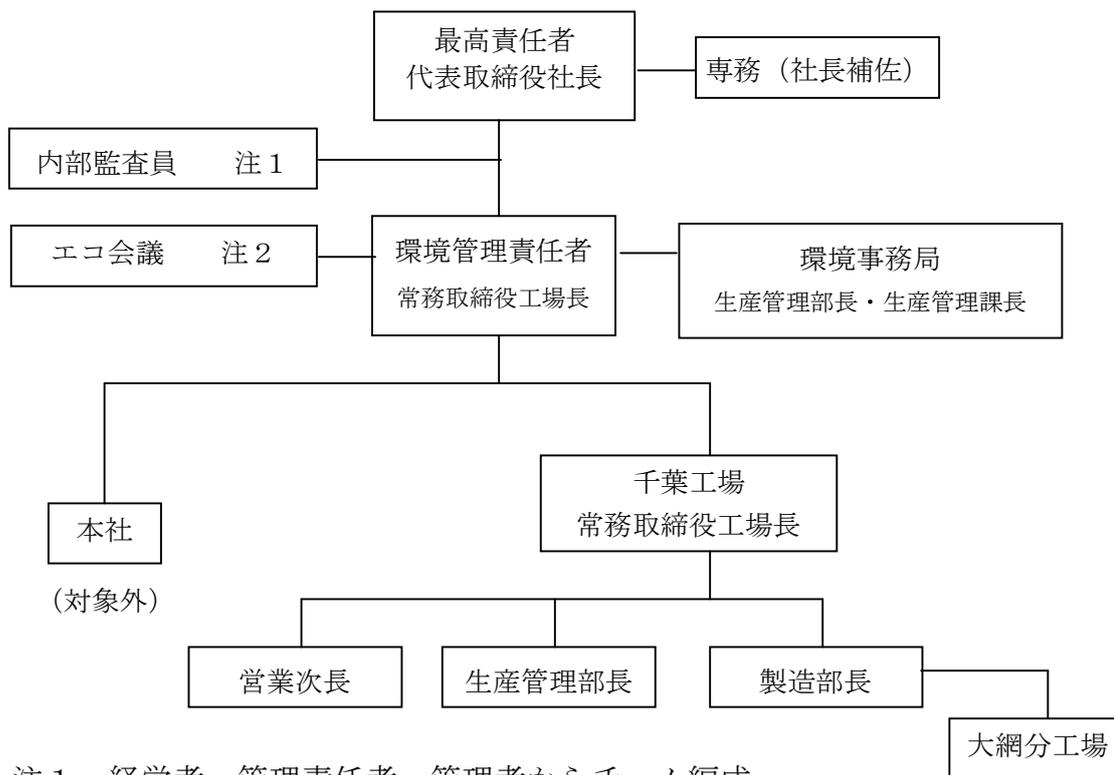
大正9年 東京本所区錦糸町に岩崎鉄工所として創業。諸機械及び歯車の製作を開始。

- 昭和6年 深川区千田町に移転。小名木川ギヤー製作所に社名変更。歯車専門メーカーとなる。
- 昭和19年 深川区猿江町に本社、工場を移設。
- 昭和24年 合資会社小名木川ギヤー製作所として法人化。資本金50万円。
- 昭和50年 株式会社小名木川ギヤーに改組。資本金2000万円。
- 昭和56年 千葉県茂原市に千葉工場を建設。
- 昭和61年 製造業務をすべて集結。
- 平成2年 日立製作所製オフコンを導入。生産管理を稼動。
- 平成12年 クライアントサーバシステム新生産管理システムを稼動。
- 平成15年 ホームページ公開 (URL : <http://www.onagigawa.co.jp/>)
- 平成16年 千葉県山武郡大網白里町に大網分工場開設。
- 平成19年 改良生産管理システムを稼動。

6. 現在の事業内容

歯車製造業として材料（主として鋼材）調達から、機械加工、熱処理（取引先に外注）、表面処理（取引先に外注）、梱包、輸送までの一貫した事業を行っている。

7. 環境組織図



注1：経営者・管理責任者・管理者からチーム編成

注2：委員長：管理責任者、委員；社長・専務・顧問・部門長

8. 対象範囲

今回の対象は千葉工場(大網分工場を含む)であり、本社は適用を除外する。
次回、更新時に全社適用範囲で認証登録する予定。

Ⅲ. 環境負荷の実情

2008年度千葉工場における環境負荷の実情

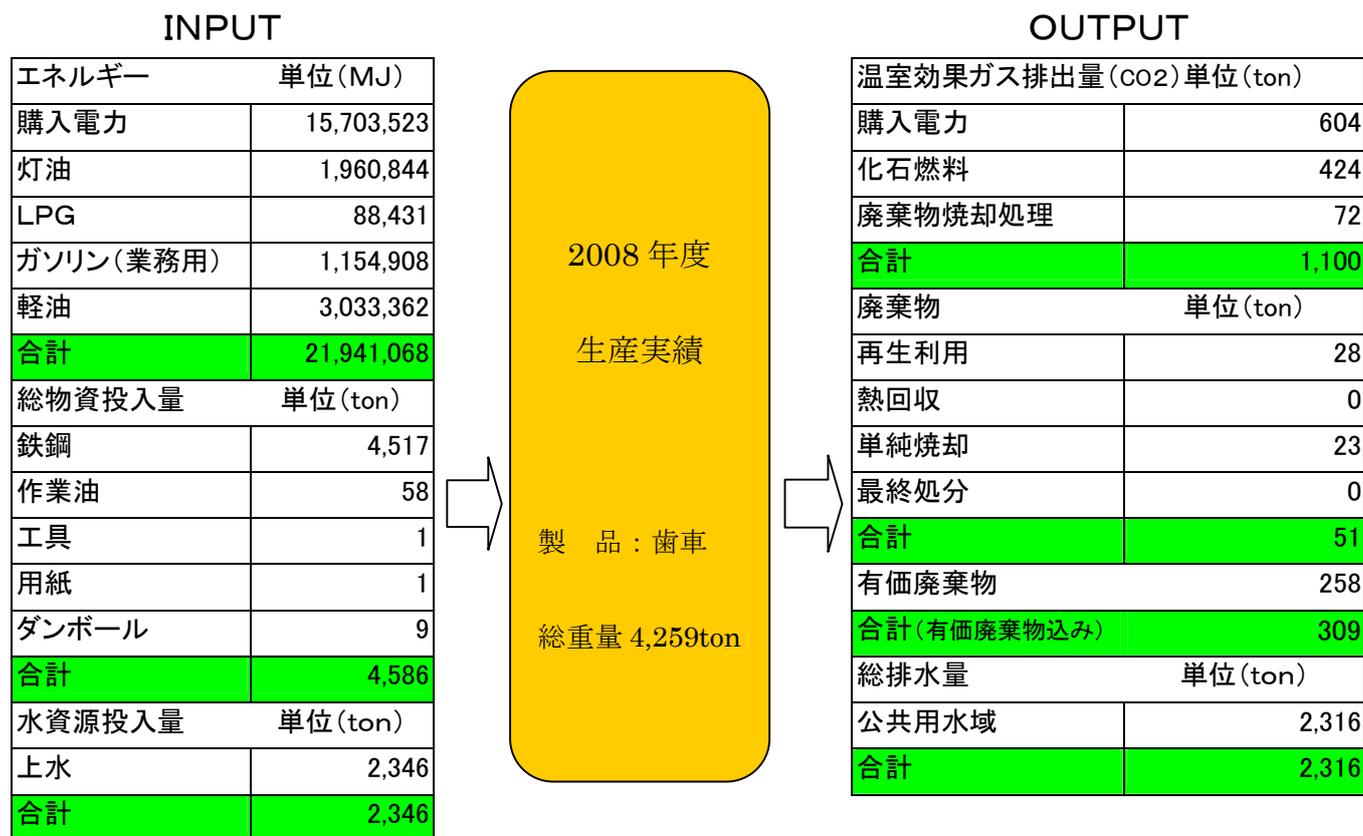
電力及び化石エネルギー使用量、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量及び総排水量の実情は次の通り。

項目	単位	2008年度
電力使用量	kWh/実働延人員	61.57
灯油使用量	L/月	4,452
ガソリン・軽油使用量	L/実働延人員	4.30
LPG使用量	kg/月	147
二酸化炭素排出量	ton/実働延人員	0.042
一般廃棄物排出量	kg/実働延人員	0.88
産業廃棄物排出量	kg/実働延人員	1.07
総排水量	m ³ /実働延人員	0.09

注1. 2008年度は2008年2月～2009年1月の実績

また、2008年度の環境マテリアルバランスは次図の通り。

環境マテリアルバランスとは、事業活動による環境負荷を低減することを検討するために、資源やエネルギーなどの投入量及び二酸化炭素や廃棄物などの排出量を算出し、図式化した一覧表である。



CO₂生産比率 (CO₂排出量1トン当たりの生産重量高比) を算出し、この指数を毎年改善していく。2008年度の実績は、製品重量 (4,259ton) / CO₂排出量 (1,100ton) =3.9

IV. 環境目標

2009年度以降の環境目標は、いずれの項目とも前年度の実績を基準として活動を行うこととし、その低減率を下表のように設定する。

また、新活動「5S励行」を追加し、2009年度の目標値としてチェックリストによる点数評価60点を設定する。(活動前47.5点)

項目	単位	2009年度	2010年度	2011年度
電力使用量	kWh/実働延人員	前年度実績を基準としてΔ3%低減		
灯油使用量	L/月	〃	Δ3%低減	
ガソリン・軽油使用量	L/実働延人員	〃	Δ3%低減	
LPG使用量	kg/月	〃	Δ3%低減	
1. 二酸化炭素排出量	ton/実働延人員	〃	Δ3%低減	
2. 一般廃棄物排出量	kg/実働延人員	〃	Δ5%低減	
3. 産業廃棄物排出量	kg/実働延人員	〃	Δ3%低減	
4. 総排水量	m ³ /実働延人員	〃	Δ5%低減	
5. 5S励行	点数評価	60点	前年度実績を見て目標値決定	

V. 2009年度における環境目標とその実績

2009年度の目標に対する実績は次の通り。

項目	単位	目標値(月)	実績	判定
電力使用量	kWh/実働延人員比	59.72	47.18	達成
灯油使用量	L/月	4,318	2,655	達成
ガソリン・軽油使用量	L/実働延人員比	4.20	4.10	達成
LPG使用量	kg/月	142	113	達成
二酸化炭素排出量	ton/実働延人員比	0.041	0.033	達成
一般廃棄物排出量	kg/実働延人員比	0.84	0.77	達成
産業廃棄物排出量	kg/実働延人員比	1.05	0.33	達成
総排水量	m ³ /実働延人員	0.085	0.068	達成
5S励行	点数評価	60点	58.3(最終月)	未達成

[判定に対する考察]

二酸化炭素排出量：目標値をクリアできた。個々の項目については、次に記す。

電気使用量：目標値を大幅にクリアできた。夏の気温が低めに推移した影響により、エアコンとスポットクーラーの使用を抑えることができ、幸運であった。

灯油使用量：目標値を大幅にクリアできた。灯油ストーブの消火基準遵守が励行された。

ガソリン・軽油使用量：ぎりぎりのところで目標値をクリアできた。

LPG使用量：目標値を大幅にクリアできた。ガスストーブの消火基準遵守が励行された。

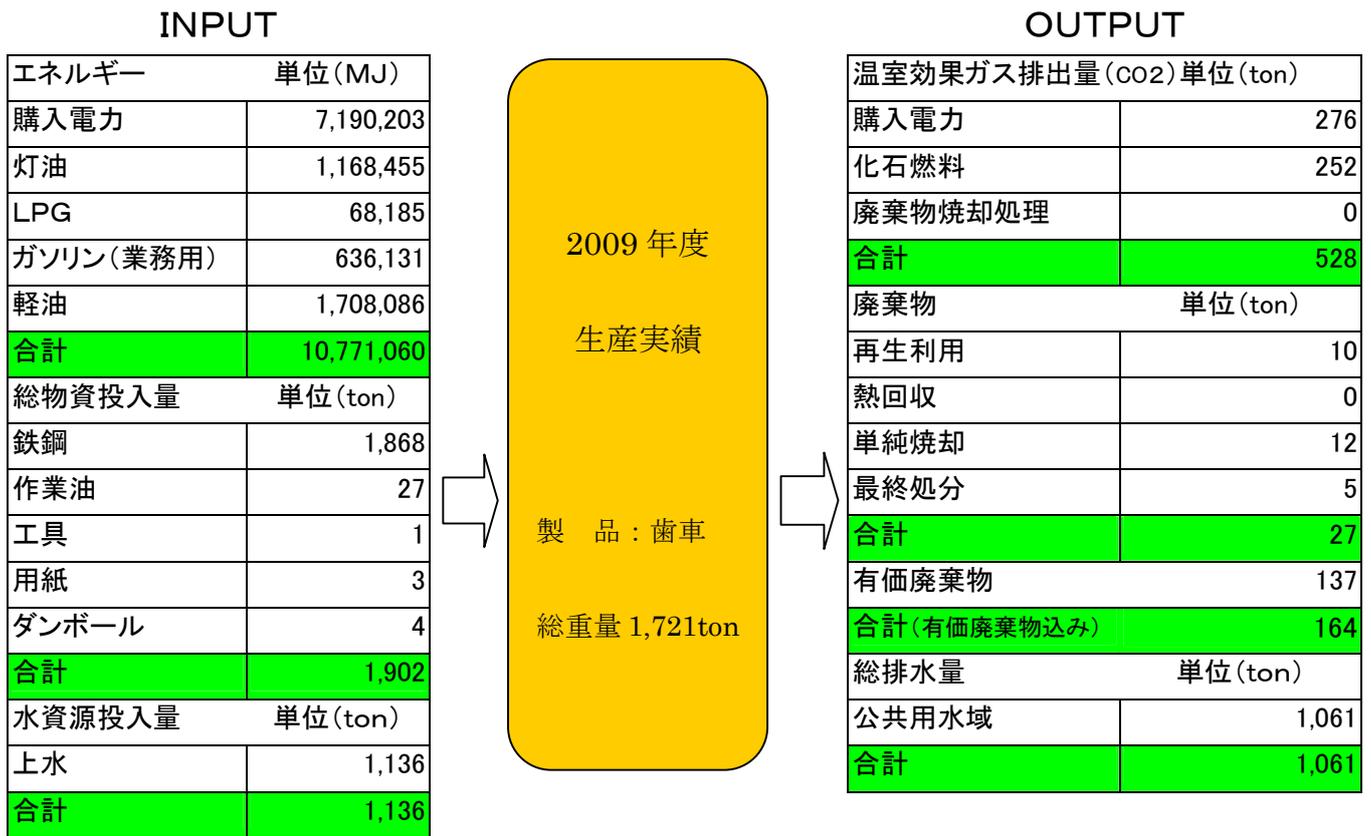
一般廃棄物排出量：全般的には排出量は確実に減少している。裏紙使用が進んだことが好結果となったが、梱包緩衝材(主材料：ダンボール)の改善が未だ実績を挙げていない。来年度の課題とする。

産業廃棄物排出量：目標値を大幅にクリアできた。従来、業者の持ち込む廃材を産業廃棄物として処分していた物を、できるだけ「リユース、リサイクル」したことが、この結果に至ったと考えられる。

総排水量：従業員に対する啓蒙活動を実施したことにより、達成できた。

5S励行：2008年度が47.5点であったところから、改善は進んだが、目標達成には至らなかった。今後もパトロールチェックと改善フォローを強化し、評価点向上を目指していく。

2009年度の環境マテリアルバランスは次図の通りとなった。



この表から、CO₂生産比率（CO₂排出量1トン当たりの生産重量高比）を算出した結果は、製品重量（1,721ton）/CO₂排出量（528ton）=3.3となった。

2008年度が3.9のため、低下してしまっただが、原因として急激な景気悪化による生産量の落ち込みが考えられる。この結果を2010年度の活動計画に反映させる。

VI. 主要な環境活動計画の内容

No.	項目	目標値	改善活動の内容
1	電力使用量	前年度実績 3%低減	①昼休み・不在場所の消灯（月4回程度巡回点検） ②工場事務所のエアコン適温化（夏季：28℃、冬季：20℃） ③電気ストーブ周りの適温化（足元温度：25℃以下） ④エア配管系のエア漏れ点検修理
2	灯油使用量	前年度実績 3%低減	①昼休み・不在場所の消火（月4回程度巡回点検） ②灯油ストーブ周りの適温化（室温：20℃以下）
3	ガソリン・軽油使用量	前年度実績 3%低減	①輸送ルートの事前検討励行（運行管理者による日常指導） ②フォークリフト省エネ運転励行（管理者注視による指導） ③社有車の計画的運行（運行ルート事前確認）
4	LPG使用量	前年度実績 3%低減	①ガスストーブ周りの適温化（室温：20℃以下）
5	一般廃棄物排出量	前年度実績 5%低減	①梱包緩衝材をリユース材への変更 ②コピーの縮減、裏紙利用促進 ③家庭ごみ持込禁止運動の展開
6	産業廃棄物排出量	前年度実績 3%低減	①廃油リユース、産業廃棄物の適正処理 ②工事排出物の業者指導（発生都度実施） ③破損パレット返却励行
7	総排水量	前年度実績 5%低減	①蛇口付近に節水励行札取り付け ②朝礼等にて啓蒙活動
8	5S励行	60点 (活動前 47.5点)	①部門長による巡回点検（チェックリストにて3ヶ月毎） ②採点結果の啓蒙活動 ③安全衛生委員会にて対策実施

VII. 環境保全活動の取組み結果の評価

1. 内部監査・外部監査

1) 内部監査

認証取得前に2009年4月9日にコンサル指導の下、第一回目の内部監査を実施した。

また、認証取得後に2009年12月22日に第二回を実施した。

その結果の不適合指摘項目に対しては、全て期限どおり是正処置が施された。

2) 外部監査

活動中、ある程度良好な実績が得られていたので、外部監査は実施しなかった。

外部からの要求もなかった。

2. マネージメントレビュー

前述の内部監査実施後に2009年5月13日と2010年1月13日にマネージメントレビューを開催し、環境方針、環境目標、環境改善活動計画とその実績及び環境組織が適正に運用及び実施されていることが確認された。

その結果、環境方針・環境目標は現状維持することにした。

3. 環境への取組みの自己チェック（環境活動前後の比較）

2008年11月のEA21取組前と2009年5月のEA21取組後のチェック結果を下表に示す。いずれの項目も評価点が上がっている。これは、全従業員を巻き込み、トップマネジメントとして取り組むことができた証と評価している。

今後は、「取り組んでいない（チェックリスト：0点）」「さらに取組が必要（チェックリスト：1点）」の項目を、ワンランク向上させる施策を計画し実行していく。

項 目	評 価 点	
	08年11月 (EA21取組前)	09年5月 (EA21取組後)
1. 事業活動へのインプットに関する項目	9/32	20/32
2. 事業活動からのアウトプットに関する項目	65/98	93/98
3. 環境経営システムに関わる項目	4/66	60/68
合計評価点	78/196	173/198

5. 利害関係者による評価

今期中（2009年2月～4月）は利害関係者による指摘・評価等なし。

VIII. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規に対しての違反を調査した結果、違反はありません。また、関係当局及び利害関係者からの訴訟・指導・苦情等は、過去3年間ありません。